

 Book and question mark abstract illustration

なぜ令和の若者は 「正解」を欲しがるのか？

書籍『考察する若者たち』（三宅香帆 著）に学ぶ、現代の「報われ」消費

Phoenix-Aichiオンライン教室

はじめに： なぜ今「考察」ブームなのか？

ドラマ、アニメ、ゲーム... SNSは「考察」動画で溢れています。

制作者側も「考察」を促す仕掛け（例：『あなたの番です』『変な家』）を施した作品がヒット。

このブームの背景にある「現代特有の痛み」とは？

「批評」と「考察」の決定的な違い

批評（かつての主流）

- 「作者すら思いつかない解釈を提示」
- 解釈は無限
- 「正解」はない
- (自由な解釈が主役)

考察（現代の主流）

- 「作者の意図（謎）」を強く意識
- 伏線や裏設定を探す
- 「一つだけの正解」がある
- (と信じられている)

なぜ「正解」が求められるのか？

「報われ ポイント」

「報われたい」という心理

「正解がないなら、批評の努力は報われない」と感じる。
余暇や楽しみにおいてさえ、「報われるゴール」が求められる。

「考察」文化は、作品の受容体験を「正解のあるゲーム」に変えた。

背景①：アルゴリズムと「界隈」



レコメンド・アルゴリズム

YouTube等の「おすすめ」機能。
「『正解』という名の最大公約数」
を強化する。



「界隈」の形成

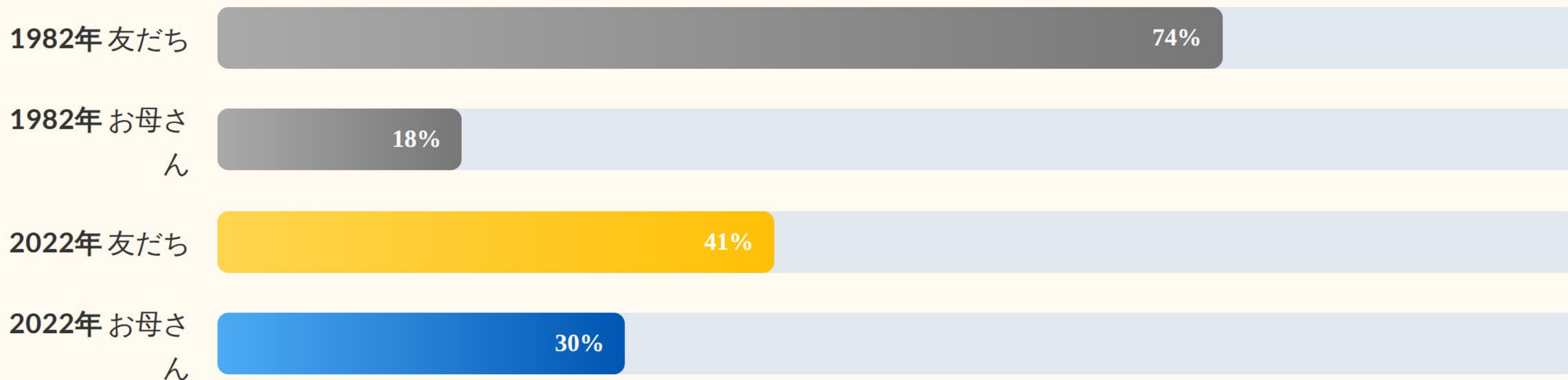
同じ主張を持つ人たちの集団。アル
ゴリズムが「界隈」内のコンテンツ
を供給し続ける。



友情の変化

「共感できる価値だけを共有する
場」に。意見が対立する「面倒な悩
み」は敬遠される。

悩み相談の相手の変化（中高生の調査）



「友だち」への相談が激減し、絶対的で「正しさ」を持つ存在（親）への相談が増加している。

「擬似親」ファンタジー

“ 界限を気にせず接することができ、「正解」に近いことを教えてくれる理想的な相談相手 ”

— 現代社会が求める「擬似親」の姿

背景②：AIの登場

ググる (Google検索)

- 年代も作者もバラバラな「情報の渦」
- 自分で「選び取る」必要があった
- 報われない (= 正解が見つからない) 努力も必要

ジピる (ChatGPT)

- 「大きな個体」が「一つの正しい答え」を提示
- 複雑な選択が不要
- 「報われ度」が非常に高い

AIは"完璧な擬似親"か？

AI = 完璧な「擬似親」

AIは「正解を提示する擬似親」として、今後ますます受け入れられていくでしょう。

⚠️ ハラリ氏の警告

しかし、Googleが情報の「網 (Web)」として世界を開いたのに対し、AIは私たちを情報の「繭 (Cocoon)」の中に閉じ込める危険性があります。

AIが提示する「正しさ」に満足し、その偏りに気づけなくなるかもしれません。

背景③：「自分らしさ」の生きづらさ



アテンション・エコノミー

「注目」に価値がある社会。再生数や「いいね」の数でフラットに評価される。



「最適化」される自分

「考察」に語り手の個性は不要。その場の「界限」に「キャラ」を最適化することが求められる。



生きづらさ

「自分らしさ」を貫くことは「最適化できていない」証。「自分らしさ = 生きづらさ」となっている。

私たちはどこへ向かうのか？

- 🗨️ **結論:** 私たちは「報われたい」という痛みから、AIや「考察」にしがみつきたくなる。
- ❓ **問い:** その「正しさ」にしがみつくことで、私たちは本当に報われているのだろうか？
- 💡 **選択肢:** 「正解」のない「批評」の世界に足を踏み入れてみる。作者の意図（正解）だけでなく、「**私はどう感じたか**」という「自分だけの感情」と向き合う。

Questions?

ご清聴ありがとうございました。

Phoenix-Aichiオンライン教室

「学び」とは、AIの「正解」を覚えることではなく、
自分なりの「解釈」を生み出すプロセスです。

Image Sources



https://images.stockcake.com/public/7/b/f/7bfed293-c0b4-42f9-8e40-8e1f6c5a85a0_large/machines-meet-machines-stockcake.jpg

Source: stockcake.com